HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「教室リ・モデルでの教育実践にみる空間活用の方法に関するエスノメソドロジー」に対する討論（馬渡龍，菅野實，小野田泰明，坂口大洋著，日本建築学会計画系論文集，第558号，115-120，2002年8月号掲載）
Author(s)	森，傑；舟橋，國男
Citation	日本建築学会計画系論文集，572，217-218
Issue Date	2003-10-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/37282
Rights	日本建築学会
Type	journal article
File Information	110004658857.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

Architectural Institute of Japan

【討　論】

日本建築学会計画系論文集　第572号，217-218，2003年10月
J. Archit. Plann., AIJ, No. 572, 217-218, Oct., 2003

「教室リ・モデルでの教育実践にみる空間活用の方法に関するエスノメソドロジー」に対する討論

（馬渡　龍，菅野　實，小野田泰明，坂口大洋著，日本建築学会計画系論文集，第558号，115-120，2002年8月号掲載）

DISCUSSION ON RESEARCH ACTIVITY PUBLISHED AS "AN ETHNOMETHODOLOGICAL STUDY FOR PRACTICAL USE OF THE SPACE IN THE REMODELED CLASSROOM"

(Toru MAWATARI, Minoru KANNO, Yasuaki ONODA and Taiyo SAKAGUCHI, J. Archit. Plann. Environ. Eng., AIJ, No. 558, 115-120, Aug., 2002)

森　　傑*，舟橋國男**
Suguru MORI and Kunio FUNAHASHI

"Ethnomethodology" in the above paper was discussed as a sociological method, and "Ethno" was explained as a critical sociology. However, "Ethnomethodology" is not a method, but a theoretical position or an intellectual attitude. It's research program is to analyze and explain "ethnomethod", that is, the various methods being used to carry out the various matters which the people attain in the daily life.

Keywords : *ethnomethodology, method, conversation analysis, sociology, theory*
エスノメソドロジー、手法、会話分析、社会学、理論

1．はじめに

リ・モデルされた教室における教育の実践と空間活用の実態についての研究に、エスノメソドロジーの導入を試みられた貴論文を、大変興味深く拝読しましたが、多くの疑問を禁じ得ません。以下の3項について討論をお願いします。

2．エスノメソドロジーは手法か

貴論文では、「1（2）研究の方法」において、エスノメソドロジーを「社会学的手法」と措定し、随所にこれを「用い」ると記されている。しかし、エスノメソドロジーは、創始者ガーフィンケルの著書等[文1)2)]にも明らかであるが、通常「普通の人々は（ethno）、日常生活の対人関係における意志疎通行為の基盤をどのようにして組み立て意味づけ理解しているのかというそのやり方（method）、についての経験的な研究（logy）」[文3)]と理解されるように、新たな学あるいは研究アプローチに関わる研究視点や知的態度であって、「手法」ではない。また、その分析対象は、「人々が日常生活において達成している実にさまざまなことを遂行するために使っている、さまざまな方法や手続き」、つまりエスノメソッド（ethnomethod）であると解釈するのが妥当である[文4)]。貴論文における取り組みとその「研究の方法」は、「フィールドワークによる現地体験を通した『調査のプロセス』と、その結果解釈・記述された『モノグラフ』からなる調査方法として理解」された「エスノグラフィー」[文5)]に近いというべきではないか。"理論的立場"であるエスノメソドロジーと"調査戦略"としてのエスノグラフィーとでは、次元が異なる[文6)]ことは言うまでもなく、前者を手法として扱うことはその学術的意義を失わせ研究の適切な進展を妨げる虞が大きい。

3．エスノメソドロジーは批判的社会学と呼べるか

貴論文の注（1）では、「エスノは．．．批判的社会学と呼ばれる」とされているが、批判的社会学とは、「エスタブリッシュメントに批判的な動機を持つ社会学をさすこともあるが、とりわけフランクフルト学派の『批判理論』に基づく社会学をさす」ものである[文7)]。一方、エスノメソドロジーは、「アメリカ社会学のなかの批判的潮流として登場し、説明活動の客観性という社会学の努力目標それ自体への問題提起を含む『社会学の社会学』としての側面を有していた」が[文8)]、「科学批判と社会批判とを同時に行おうとする」批判的社会学とは異なる。一般的には、エスノメソドロジーのほか、批判的社会学、自己反省の社会学、現象学的社会学、象徴的相互作

* 北海道大学大学院工学研究科都市環境工学専攻　助手・博士(工学)
** 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻　教授・工博
Research Assoc., Dept. of Urban Environmental Engineering, Graduate School of Engineering, Hokkaido University, Ph. D. in Eng.
Prof., Dept. of Architectural Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

用論などは、1960年代後半からの社会学の新たな動向として並列的に紹介される[文9]。これらの研究アプローチは相互に結びつきを示しているため明確な区別は難しいが、R・ウォーラスは社会学理論のパースペクティブ・仮定・方法論・目的の論点から比較検討を行っている[文10]。下表は、ウォーラスの説明を基にエスノメソドロジーと批判理論に関して整理したものである。つまり、記述的分析と帰納的推論を目指す点は類似するが、批判理論は人間の行動は原則的に説明可能で予測可能なものとし、社会構造全体の性格と社会制度の一般的な性質に関心を抱くのに対して、エスノメソドロジーは相互作用やコミュニケーションのディテールに注目し、行動を予測し科学的法則を発展させることは不可能であると主張する。

なお、貴論文注釈(1)における文献引用も正確さを欠く。正確には「ここからエスノメソドロジーの研究課題が出てくる。それはインデックス性に直面しても、実証主義科学のように科学的方法によってインデックス性を修復し、普遍的で一般化された理論を構築するのではなく、コンテクストに埋め込まれたメンバーの実践の展開過程を執拗に追及すること」である[文11]。文献中に「エスノ」という記述は見当たらず、文脈から判断しても「エスノ」と表記して説明することは妥当とは言い難い。

表　エスノメソドロジーと批判理論の比較

	ｴｽﾉﾒｿﾄﾞﾛｼﾞｰ	紛争理論	
			批判理論
ﾊﾟｰｽﾍﾟｸﾃｨﾌﾞ	微視的	巨視的	
仮定	非決定論的	決定論的[注1]	
方法論	帰納的	演繹的	帰納的[注2]
目的	記述的分析	一般的説明と予測	記述的分析

4．「空間活用の方法に関するエスノメソドロジー」とは

貴論文は、太田市立休泊小学校という事例について、リ・モデルによって教室南側にベランダを増築し間仕切りを可動にした結果、①教室での活動様態の自由が増し、②各々の活動様態と机の配置方法が対応していることを明らかにしている。しかしながら、「授業において異なる目的が達成されるには、特定のコミュニケーションの方法と空間活用の方法が関連づけられることにより、教師と児童との異なる関係が結ばれる」(117頁右)という仮説を挙げながらも、「ふざける」授業では「通常の授業のように特定の秩序や規則に拘束されない、自由な状態のコミュニケーションの方法が用いられている」(119頁左)という指摘に留まり、また、③「リ・モデルされた教室においては．．教室の認識に、二重の意味を付与している」(119頁右)と考察しているが、これらはリ・モデルのもたらす影響ないし意味であって、空間活用方法のエスノメソドロジーとは言えない。

因みに貴論文の中心的観点であると思われるinvisible pedagogy（訳書では「目に見えない教育方法」）[注3]について、バーンステインは「限定されたコミュニケーション形式」とは異なったかたちでその場その場に適した教師と生徒の関係が「個人対個人」で築かれると同時に、そこで「目に見えない教育方法の伝達形式をとることによって、子どもの多くの側面が人前にさらされ」、そのため「子どもの多くの側面が直接的にも間接的にも監視や統制の対象」となり、教師-生徒関係は「あいまい」でありながらも、「精密化された形の個人対個人のコミュニケーション過程が統制される」と述べている[文12]。

もし、「空間活用の方法に関するエスノメソドロジー」とすれば、教師による暗示的な統制はどのようなエスノメソッドで達成されているのか、教師-生徒のあいまいな関係はどのようなエスノメソッドの折り重なりで形成され維持され変化するのか、その特定のエスノメソッドとそれがもたらす秩序はメーハンの言うIRE構造[文13]と何が異なるのか等について、空間活用方法との関連のもとに論じられなければならない。そのような微視的観点によるエスノメソッドの記述は、貴論文で説明する“閉じる／開けるという間仕切りの活用”のレベルに留まらないことは明らかである。

教師ならびに生徒それぞれの、また両者間の関係における“エスノメソッド”が帰納的に明らかにされているとは判断されないところから、貴論文は「空間活用の方法に関するエスノメソドロジー」とは言い難いのではないでしょうか。

謝辞

本稿執筆に当たり、北海道大学大学院教授・奥俊信先生から貴重な示唆をいただきました。ここに記して深謝いたします。もとより、本稿の誤り・未熟さは討論者の責にあります。

注釈

1) 紛争理論は、目的的な個人や集団の観点から物事を論じる傾向があり、どの程度受動的なかたちで決定されるものとして扱うかについては、決定論的立場の理論の中でもそれぞれでかなり異なっている。文10)を参照。

2) フランクフルト学派（批判理論）の研究は、象徴的相互作用主義、あるいはエスノメソドロジーの場合のような形で、帰納的であるわけではない。この学派の支持者は「参与観察」を信用していないし、現象学、つまり、エスノメソドロジーに主な哲学的影響力を与えた現象学を、直感に頼るといって、攻撃している。文10)を参照。

3) バーンステインがinvisible pedagogyと表現する本質的な意図は、生徒に対する教師の統制が暗示的であるということであり、間仕切りが開けられているといった実際の教室の使い方を意味するものではない。また、貴論文の注(7)指摘文献には「開かれた方法／閉じた方法」を意味する表現は無い。以上から、バーンステインの教育方法を注(7)のように言い換えられた説明は不適切である。

参考文献

1) H. Garfinkel, The Origin of the Term "Ethnomethodology" in Roy Turner (ed.) Ethnomethodology, penguin, 1974, pp.15-18
2) ハロルド・ガーフィンケル、「エスノメソドロジー命名の由来」、ハロルド・ガーフィンケル他・山田富秋・好井裕明・山崎敬一編訳、『エスノメソドロジー　社会学的思考の解体』、せりか書房、1987、pp.11-18
3) ケネス・ライター、高山眞知子訳、『エスノメソドロジーとは何か』、新曜社、1987、pp.327
4) アラン・クロン、山田富秋・水川喜文訳、『入門エスノメソドロジー　私たちはみな社会学者である』、せりか書房、1996
5) 古賀正義、「参与観察法と多声法的エスノグラフィー　学校調査の経験から」、北澤毅・古賀正義編著、『<社会>を読み解く技法　質的調査法への招待』、福村出版、1997、pp.72-93
6) ウヴェ・フリック、小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子訳、『質的研究入門　<人間の科学>のための方法論』、春秋社、2002
7) 見田宗介・栗原彬・田中義久編、「批判的社会学」、『社会学事典』、弘文堂、1988、pp.740-741
8) 森岡清美、塩原勉、本間康平編、「エスノメソドロジー」、『新社会学辞典』、有斐閣、1993、pp.99-100
9) 森岡清美、塩原勉、本間康平編、「社会学」、『新社会学辞典』、有斐閣、1993、pp.599-602
10) R. ウォーラス・A. ウルフ、『現代社会学理論』、新泉社、1985、pp.390-414
11) 山田富秋、「アイデンティティ管理のエスノメソドロジー」、栗原彬編、『差別の社会理論』、弘文堂、1996、pp.77-99
12) バジール・バーンステイン、「階級と教育方法」、J. カラベル・A. H. ハルゼー編、潮木守一・天野郁夫・藤田英典編訳、『教育と社会変動（上）』、東京大学出版会、1980、pp.227-260
13) Hugh Mehan, "Learning Lessons: Social Organization in the Classroom", Harvard University Press, 1979

（2003年4月10日原稿受理，2003年6月4日採用決定）

NII-Electronic Library Service